

SKY コーナー

「2019 ITEA信越安全大会」開催

叡智を結集し、見逃すな危険、
守ろう仲間、育てよう豊かな社会

情報通信エンジニアリング協会 信越支部

(一社) 情報通信エンジニアリング協会信越支部主催、NTT東日本・NTTグループ各社様の後援により「2019 ITEA信越安全大会」を去る2019年8月22日に長野市、8月28日に新潟市において開催しました(写真1)。本大会は、2011年度にITEA信越安全大会としてスタートし、今回で9回目の開催となりました。

大会メインテーマを、『叡智を結集し、見逃すな危険、守ろう仲間、育てよう豊かな社会』としました。大会の冒頭で司会者より「私達は、現場で起きた事故を教訓として、これまでさまざまな対策を講じてきましたが、残念ながら重篤な事故は止まっています。そこで今年は、基

本に戻り、過去から培った優れた知性と知恵、その「叡智」を結集して、「危険を事前に察知して躊躇なく除外する勇気と仲間の安全を気遣う思い遣りの心を育み、皆で明るく豊かな職場、社会を創造していこう!という思いを込めて本テーマとさせていただきます」との説明を行いました。

また、前回大会に引き続き、協力会社社員の皆さんから安全標語を募集し、優秀作品に選出された「ちょっと待て 見えない危険がひそんでる KY実施で安全作業(長野大会)」「慣れるほど 少しの妥協は事故のもと 初心にかえり 安全確認(新潟大会)」を掲げて開催しました。

来賓にNTT東日本・NTTグループ各社の幹部の皆様をお迎えし、ITEA会員各社および協力会社の現場第一線の社員の皆さんが長野と新潟の2会場に集結し、約1,000名の参加となりました。

大会は、大会テーマの説明からスタートし、ITEA信越支部長の挨拶、来賓者様からのご挨拶・ご講演、外部講師による安全講演、危険体感デモ、安全ビデオの視聴を行い、最後に安全決意表明と参加者全員による安全唱和で幕を閉じました。また、ロビーでは展示ブースを設け、NTT東日本グループ会社様、通建会社様、メーカー様総勢20社による機械器具工具等の展示を行いました。

大会テーマ説明

昨年の大会に引続き、参加者全員の本大会に向かう意識を統一させるために、司会者より大会テーマ「叡智を結集し、見逃すな危険、守ろう仲間、育てよう豊かな社会」の説明を行いました。

笠井支部長挨拶

主催者を代表して笠井信越支部長から「2019年度安全大会にあたり」と題して講話がありました(写真2)。



写真1 大会模様



写真2 笠井支部長挨拶

まず、安全とは継続して取り組むすべての事業の基盤であり、安全施策に終わりはない。ぜひ施策の実施状況や効果の確認、フォローアップに向けた取り組みをお願いしたいと冒頭挨拶を述べてから、過去10年間の事故の状況と事故減少の要因について説明しました。

人身事故については10年前に比べ確実に減ってきており、事故が多発していたアクセス系工事での事故が減少したことで、他の分野で起こる事故に目が行ってしまう状況であること、設備事故については長年の経緯の中で減少傾向をたどり、人身事故・設備事故ともに、右肩下がりで事故の総数は減ってきていると述べました。

しかし事故が減少している要因として考えられるのは、さまざまな技術的サポートやツール・工法の改善があったことをはじめ、バケット車の配備やベルブロック・キーロック・フルハーネスの定着による高所作業での事故が減少したことなどであると説明したうえで、こうした目に見える方法で減らせる部分の事故は減少させることができたものの、事故はなくなっておらず、私たちは技術・工法・ツールなどで減らすことのできない事故の要因に注力しなければならないと述べました。

続いて、事故の要因をひも解くと、ルール無視にプラスアルファで事故が発生しているとし、2014年度～2018年度に起きた事故要因に



写真3 来賓挨拶

ついて説明しました。人身事故については、決められたルールを守らなかったことにより発生した事故が9件中6件、設備事故に至っては、6件中6件すべてがルール違反による事故であり、発生した事故を分析すると、決められたルールが守られていないということに加え、気の緩みやスキル不足・人員不足・勝手な判断や思い込みなどの追加要素が加わることで事故が発生すると思われると述べたうえで、「作業の前に一度立ち止まって、守るべきことは何か、なぜ決まりごとがあるのかを考えてみることを習慣にしてみようか」と参加者に投げかけました。

次に、近道行動に関する状況として、作業員の小集団活動で行った近道行動に関するディスカッションの結果を元に、近道行動をしてしまう場面としては大きく『意図的行為』『外的要因』『危険意識』の3つに分かれ、『意図的行為』は「すぐ終わるから」「面倒だから」というものや、作業を効率化するために「何かを省く」といった理由があり、『外的要因』では「工事の進捗に焦る」ことや「お客様からのプレッシャー」などで、『危険意識』については、「自分は事故を起こしたことがないから大丈夫」といった意識があることが明らかになったと説明しました。これらの要因を踏まえたうえで、「安全は人のマネジメントであり、安全管理は、私たち自身のマネージであり個人管理。1人ひと

りが現場でしっかり向き合って、やるべきことをしっかりやるのが大事ではないか」と述べました。

そして、安全を支えるのは意識と行動であり、安全は日々の作業プロセスのなかで作りこむということが安全のマネジメントであるとしたうえで、守ってほしい2つのことを挙げました。

- ① 実施しなければならないことを実施し、守らなくてはいけないルールを確実に守る
- ② やってはいけないことをしない・させない

ルールを守ることを「当たり前のこと」と1人ひとりが認識することで人的要因の事故は必ず減らせる。ルールを守っていないところに、プラスアルファの何かが起こった瞬間に事故が起こる。そういった状況を作り出さないことが、とても重要であると述べました。

最後に、安全をマネジメントするうえで最も大事なものはコミュニケーションであり、「家族と同じような気持ちを持って、笑顔を忘れず、挨拶を含めてちゃんと声をかけること。チームとして、ファミリーとして、しっかり安全のマネジメントをしていきましょう。」と締めくくりました。

来賓挨拶

来賓を代表してNTT東日本ネットワーク事業推進本部エンジニアリング部エンジニアリング部門 担当部長 滑川 哲也様からご挨拶をいただきました(写真3)。

まず、東日本エリアにおける人身事故発生状況の説明として、2016年をピークに事故自体は減ってきているものの、死亡などの重篤な事故は継続して発生している状況であるとし、重篤な人身事故につながる

①転落、②落下、③逸走、④道路横断・飛び込まれ、⑤感電、⑥酸欠事故の6ケースに重点をおいて取り組んでいきたいと説明されました。

また、重篤事故撲滅に向けた取組みとして「安全の鉄則」と現場第一線の認知度が低い事故防止に向けた「頻度の少ない重篤事故事例」を参考にしてKYTや作業指示を行い、危険予知の感性を磨いていきたいと述べられました。

最後に、「安全はすべての事業の基盤であり、日々の安全作業を守って引き続き現場業務に従事していただきたい。」と説明されました。

特別講演

長野会場では「NTT東日本の事業動向について」と題してNTT東日本一関信越 長野支店 設備部部长 渡部 健太郎様から、新潟会場では「NTT東日本の事業動向と安全への取り組み」と題して、NTT東日本新潟支店長 飯塚 智様から

ご講演をいただきました(写真4・5)。

渡部部長様、飯塚支店長様ともに、「NTT東日本の事業動向」について述べられました。

また、渡部部長様からは、「建設業界を取り巻く環境」、飯塚支店長様からは「安全への取り組み」についてもご説明を頂戴いたしました。

安全講演

昨年度に引き続き、外部講師による安全講演を実施しました。講師は「株式会社BESTS」の佐藤 浩様をお願いをし『～脳活性による安全対策～事故を起こさないための集中力の高め方』と題してご講演をいただきました(写真6)。

■佐藤 浩様プロフィール■

能力開発プロデューサー

前 近畿大学陸上競技部 駅伝監督

大脳生理学を基に「心技体」を向上させるメンタルトレーニングの指導者。1988年 四日市大学で、駅

伝部を設立。東海地区18位のチームを三重県で初めて全日本大学駅伝に出場させた。

「ストレスマネジメントできる人を増やすことが職場や家庭の繁栄になる」を信条に、活動の場を全国に広げている。

危険体感デモンストレーション

前回大会より引続き実施した、「バーチャル・リアリティ (VR) 体感」を実演し、『バケット車の逸走』と『梯子からの転落』を体感しました(写真7～9)。

ステージで体感していただく方々にはバーチャル体感を通じて、潜む危険を察知できる能力を身につけていただきました。

また、より多くの方々に体感していただくため、長野会場ではエントランスにおいてNTT東日本一関信越様より体感ブースを設けていただき、多くの方に体感していただくこ



写真4 特別講演
(NTT東日本一関信越長野支店 渡部設備部長)



写真5 特別講演
(NTT東日本一関信越新潟支店 飯塚支店長)



写真6 安全講演
(佐藤 浩様)



写真7 危険体感ステージ (長野)



写真8 危険体感ステージ (新潟)



写真9 危険体感 エントランス
(NTT東日本一関信越長野様)

とができました。

安全ビデオ視聴

昨年度に引き続き、『忘れてはならない重大人身事故』

ここ数年で発生した、決して忘れてはならない重大人身事故の事例を再現した安全ビデオをNTT東日本様、NTTインフラネット様からお借りし、「感電」、「重機による挟まれ」、「転落（環状装着物）」の3コンテンツを視聴しました。この映像から、基本動作を徹底すること、現場での危険を事前に感じる感性を育てることを基本とし全員が安全に関する意識を改革していかなければならないと改めて感じました。

安全標語表彰

優秀作品に選出された「ちょっと待て 見えない危険がひそんでる KY実施で安全作業（長野大会）」「慣れるほど 少しの妥協は事故のもと 初心にかえり 安全確認（新潟大会）」をお作りになられた協力会社社員の方々へ笠井支部長より感謝状と記念品の贈呈が行われました（写真10・11）。

ゼロ災の決意表明・安全唱和

大会の結びとして、協力会社代表によるゼロ災の決意表明、参加者全員による安全唱和を行いました（写真12～14）。

協力会社代表による決意表明は、「2019 ITEA信越安全大会にお集まりの皆様、ご来賓のNTTグループの皆様、今、信越エリアにおいても、IoT、クラウド、5Gなどを利用したさまざまなサービスの提供に向けた設備構築・保守サービス提供な

どが急ピッチで進められております。

これら新時代のサービス提供に必要なインフラ構築工事や保守・運用業務を安全に実施するために、私たちは本日の安全大会でご講演いただいた内容や、VR危険体感、改善に向けた展示の思いを十分に理解するとともに、今後導入されるAIを活用した安全施策などに取り組み、みんなの叡智を結集し職場に展開していくことが責務であり、多くの仲間達に伝えていく事が大切であります。

重大な事故の連鎖を絶対に止めるため、重篤な事故につながる些細な危険要素に対しても敏感になり、危険要素を徹底排除した作業の実施に努め、自分と仲間の命、お客様の安心・安全の確保に向け、次のことを守り作業を進めます。

- ・一つ 「安全は全てに優先する」を胸に基本動作を守って安全第一で作業します。
- ・一つ 自分の命、仲間の命、家族

の生活、お客様の安心・安全を守るための危険予知に努めます。

・一つ 地域の皆様、サービスをご利用されるお客様に感動していただける行動に努めます。

以上、信越エリアにおける人身事故・設備事故・セキュリティ事故0（ゼロ）の達成ならびに、お客様に安心してお使いいただけるサービスの実現に向け全員一丸となり叡智を結集し取り組んで参ります。」

という力強い宣言をし、最後に大会スローガンを読み上げゼロ災の決意表明としました。

安全・VE展示

NTT東日本 技術協力センター様、NTT東日本一関信越様、NTT REC様、アイチコーポレーション様、北日本防食様、ジャパンリーコム様、住電オプコム様、高千穂産業様、トーツー創研様、日本通信電材様、ミドリ安全様、資材リンコム様、古河電気工業様、日鉄建材様、通建会



写真10 安全標語表彰
(新和通信建設 向山 正志さん)



写真11 安全標語表彰
(チューリップライフ 倉島 大輔さん)



写真12 決意表明
(プラネット信越 土屋 伸太郎さん)



写真13 決意表明
(アサヒ通信 本間 政幸さん)

社5社が、作業性改善、安全・品質向上につながる提案品を展示しました（写真15～19）。展示コーナーでは、各社VE提案品に直接触れて説明を聞くことにより、参加者は安全・品質改善の取組みの重要性について再認識することができました。

終わりに本安全大会の開催にあたりご協力をいただいたNTTグループ・通建各社の皆様に厚く御礼申し上げます。



写真14 安全唱和



写真15 展示コーナー
（NTT東日本 関信越新潟様）
MH点検ツール改善による作業性向上



写真16 展示コーナー
（ミドリ安全長野様）
メッシュハーネス（新規格）
ぶら下がり体験



写真17 展示コーナー
（日本コムシス様）
分線金物用（30N・m専用）
トルクレンチの改善

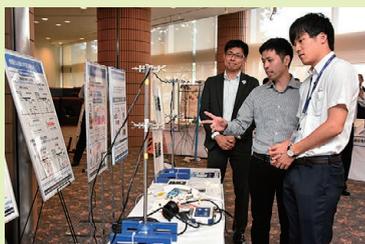


写真18 展示コーナー
（NTT東日本 技術協力センター様）
残置引込み線判定ツール



写真19 展示コーナー
（NTTレンタル・エンジニアリング様）
光ファイバカッター 他